

山元町

主な復旧・復興事業の進捗

〈令和4年(2022年) 3月31日現在〉

Vol.40

1. 生活～心豊かな町民生活を実現する笑顔あふれるまち

1-1 新市街地における基盤整備

若者からお年寄りまですべての世代が便利で快適に暮らせるコンパクトシティの理念のもと、被災された方々の生活再建の受け皿として、3地区に新市街地を整備しました。

- ・ 工期の短縮、コスト縮減が期待できる「設計・施工一括方式」により、新山下・新坂元駅周辺地区を H25.6 月に、宮城病院周辺地区を H27.4 月に発注

■新山下駅周辺地区（つばめの杜地区）：約 37.4ha

- ・ H28.3 月に、役場と新駅を結ぶ大通りに架かる「つばめの杜大橋」の開通式を経て、市街地内の道路全線が開通
- ・ 魅力ある大型遊具を配置し、町内外からの親子連れが集える「つばめの杜中央公園」を同日に供用開始
- ・ H28.5 月末に造成工事が完了し、JR 常磐線の運転再開に合わせ駅東側に「山下駅前駐車場」を整備済み
- ・ 防災機能と交流機能を兼ね備えた施設として、山元町防災拠点・山下地域交流センター「つばめの杜ひだまりホール（愛称）」の建築工事が完了。H29.10 月供用開始
- ・ 施設の主な概要
 - 敷地面積：5,561.75 m²
 - 構造：鉄筋コンクリート造 3 階建て
 - 床面積：1 階 1,634.27 m²、2 階 921.46 m²、3 階 1,274.44 m²
 - 主要諸室・設備：
 - ◇ 防災機能：避難室、医務室、隔離室、自家発電設備、太陽光発電設備、備蓄倉庫、マンホールトイレ 8 基（屋外）、耐震性貯水槽（40t）、かまどベンチ（4 基）、炊出し室他
 - ◇ 交流機能：文化研修ホール、防災情報コーナー、会議室、図書コーナー、交流情報コーナー他

新山下駅周辺地区（つばめの杜地区）



山元町防災拠点・山下地域交流センター
「つばめの杜ひだまりホール（愛称）」



新坂元駅周辺地区



山元町防災拠点・坂元地域交流センター
「ふるさとおもだか館（愛称）」



■新坂元駅周辺地区：約 10.3ha

- ・ H28.10 月に造成工事が完了し、駅南側に暫定駐車場を整備済み
- ・ 防災機能と交流機能を兼ね備えた施設として、山元町防災拠点・坂元地域交流センター「ふるさとおもだか館（愛称）」の建築工事が完了。H29.8 月供用開始
- ・ 施設の主な概要
 - 敷地面積：5,644.11 m²
 - 構造：鉄筋コンクリート造 2 階建て
 - 床面積：1 階 1,063.20 m²、2 階 1,165.19 m²
 - 主要諸室・設備：
 - ◇ 防災機能：避難室、医務室、隔離室、自家発電設備、太陽光発電設備、備蓄倉庫、マンホールトイレ 3 基（屋外）、耐震性貯水槽（40t）、かまどベンチ（2 基）、炊出し室他
 - ◇ 交流機能：防災研修室、イベントスペース、会議室、図書コーナー他

■宮城病院周辺地区：約 9.3ha（桜塚地区）

- ・ H29. 2 月に造成工事が完了し、市街地内の道路全線が開通
- ・ 「合戦原遺跡」（宮城県遺跡登録番号 14014）の古墳を活用して整備した「合戦原古墳公園」を整備
- ・ H28. 12 月に分譲宅地、一部の復興公営住宅の引渡しを開始。復興公営住宅が H29. 3 月末に全戸完成

問合せ：企画財政課 0223-37-1118
生涯学習課 0223-36-8948



1-2 新市街地における住宅供給

入居を希望する全ての方に宅地・住宅の引渡しが終了し、新生活がスタートしています。

- ・ 3 地区に 490 戸の復興公営住宅と 251 区画の分譲宅地を整備

■新山下駅周辺地区（つばめの杜地区）

- ・ “みんなの希望と笑顔を乗せた新しいまちになるように” との願いを込め、新山下駅周辺地区のまちの名称を公募し、約 500 通もの名称案の中から H27. 9 月に「つばめの杜」に決定
- ・ 復興公営住宅は県内最速の H25. 4 月に入居を開始し、H28. 3 月に戸建て・連棟式・中層集合住宅の全戸（346 戸）が完成済み
- ・ 分譲宅地は H27. 4 月から引渡しを開始、H27. 9 月に全ての分譲宅地（201 区画）の造成が完了
- ・ H28. 2 月から分譲宅地 52 区画の一般募集を開始し、全区画決定



■新坂元駅周辺地区

- ・ 復興公営住宅は H27. 4 月から引渡しを開始し、H27. 11 月に戸建て・連棟式（56 戸）が完成、H29. 3 月に中層集合住宅（16 戸）が完成し、全戸完成
- ・ 分譲宅地は 3 地区の新市街地の中で最も早く、H27. 1 月から引渡しを開始、H27. 9 月に全ての分譲宅地（40 区画）の造成が完了
- ・ H28. 2 月から分譲宅地 3 区画の一般募集を開始し、全区画決定



■宮城病院周辺地区（桜塚地区）

- ・ 移転予定者によるワークショップを経て、H28. 8 月にまちの愛称を「桜塚」に決定
- ・ 復興公営住宅は H29. 3 月末に全戸（72 戸）完成
- ・ 分譲宅地（全 10 区画）は H28. 12 月から契約・引渡しを開始、全区画決定



問合せ：企画財政課 0223-37-1118

1-3 商業者誘致

にぎわいあふれるコンパクトで質の高い市街地形成を図るため、新駅周辺に利便性を高める商業施設を誘致しました。

■新山下駅周辺地区（つばめの杜地区）

- ・ 商業用大区画は、「代表企業：株式会社キクチ（フレスコキクチ）構成企業：株式会社薬王堂」と H27. 4 月に基本協定を締結
- ・ H28. 10 月、フレスコキクチ・薬王堂がオープン、営業中
- ・ 商業用小区画は H28. 10 月にコインランドリー、H29. 6 月に坂元タクシー、同 8 月に GARDEN（理容店）、同 11 月に金ちゃんラーメン、H30. 3 月に結工房（飲食店）、同 11 月につばめの杜歯科医院がオープン、営業中



■新坂元駅周辺地区

- ・ 商業用小区画は、「代表企業：有限会社あぶくま総合、構成企業：株式会社ローソン」と H26. 12 月に基本協定を締結
- ・ H28. 2 月、ローソンが新山下駅周辺地区、新坂元駅周辺地区の 2 市街地を通じて第 1 号としてオープン、営業中
- ・ H28. 11 月、坂元郵便局が移転オープン、営業中
- ・ 商業用大区画は H31. 2 月に農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」がオープン、営業中（詳細は 3-2 に記載）

問合せ：商工観光交流課 0223-36-9837



【商業用大区画】
やまもと夢いちごの郷

【商業用小区画】
あぶくま総合ローソン
坂元郵便局



1-4 医療・福祉関連施設誘致（高齢者向け福祉施設）

宮城病院周辺地区における「医療・福祉ゾーン」の形成に向け、高齢者向け福祉施設を整備しました。

- ・ 新市街地の公益的施設用地に「地域密着型介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」や「サービス付き高齢者向け住宅」が完成
- ・ 事業者名および整備施設は以下のとおり

➤ 施設名称：特別養護老人ホーム「第二みやま荘」

事業者名：社会福祉法人 静和会

構 造：鉄筋平屋建て

床 面 積：2,225 m²

整備施設：地域密着型介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）【29 床】

併設：短期入所生活介護施設（ショートステイ）【10 床】

➤ 施設名称：サービス付き高齢者向け住宅「やまもと風の章」

事業者名：松村 吉一 医師（医療法人社団松村クリニック）

（運営事業者：㈱ひまわりケアシステム）

構 造：木造平屋建て

床 面 積：1,055 m²

整備施設：サービス付き高齢者向け住宅【20 戸】

併 設：地域密着型通所介護施設（デイサービス）【定員 18 人】

- ・ 平成 29 年 5 月、町と施設整備事業者で基本協定を締結
- ・ 平成 29 年 6 月、町と施設整備事業者で定期借地権設定
- ・ 平成 30 年 4 月、施設完成、サービス利用者・入所者の受け入れを開始

問合せ：保健福祉課 0223-37-1113



第二みやま荘外観



やまもと風の章外観



1-5 山下第二小学校

沿岸部で被災した山下第二小学校をつばめの杜地区新市街地内に新築復旧し、安心して学習できる環境整備を行いました。

- ・ 1 日も早い山下小学校との併設状態の解消に向け、H27. 6 月に校舎、体育館、プール等の建築工事に着手、H28. 8 月に新校舎落成式を開催
- ・ 木のぬくもりにあふれた校舎で、全児童が一生懸命、勉強や運動に励んでいます！
- ・ 校舎、体育館等の主な概要
 - 敷地面積：16,467 m²

山下第二小学校外観



- 校舎：木造（一部鉄骨耐火構造）地上2階建、延床面積
- 3,816.27 m²
- 屋内運動場：鉄筋コンクリート造（屋根木造）平屋建て、延床面積816.37 m²
- プール：25メートル、6コース プール附属棟、屋外体育倉庫、駐輪場
- 駐車場：31台

問合せ：教育総務課 0223-37-5115



1-6 子育て拠点施設（つばめの杜保育所、こどもセンター）

つばめの杜地区新市街地に、西につばめの杜中央公園（約1.5ha）、東に山下第二小学校（約1.6ha）と接する敷地（約0.8ha）内に子育ての拠点となる施設を一体的に整備しました。

- ・ 保育所（定員150人）や放課後児童クラブのほか、新たな子育て支援施設として、子育て支援センター、児童館を一体的に整備
- ・ H28.3月末工事完了、H28.7月子育て拠点施設の開所式を開催
- ・ H28.7月にこどもセンター、H28.8月からつばめの杜保育所の供用を開始
- ・ 施設の主な概要
 - 敷地面積：7,935.46 m²
 - 延床面積
 - つばめの杜保育所 1191.25 m²
 - こどもセンター 818.56 m²
 - 主要諸室
 - つばめの杜保育所：0～5歳児室、沐浴室、午睡室、遊戯室等
 - こどもセンター：多目的ホール、図書室、創作活動室、和室、集会室、児童クラブ室、子育て支援センター交流スペース等



問合せ：子育て定住推進課 0223-36-9835

1-7 生活再建支援

津波で被災した住宅の再建にあたり、住宅建築やかさ上げ、引っ越し等に対する補助を行いました。また、第1種・第2種津波防災区域内の一定の条件を満たす被災宅地等の買取りを完了しました。

■住宅再建支援（令和2年3月31日で、住宅再建および各種補助制度終了）

- ・ 津波防災区域から町内（※）への移転、第3種区域の現地修繕等での移転への補助
 - ・ 復興公営住宅の入居者へ生活支度金を補助
 - ・ 町内（※）で住宅を建築・購入、または被災した住宅の修繕に対する住宅再建補助
 - ・ 津波防災区域第2・3種区域等での擁壁、地盤、基礎かさ上げに対する補助
- ※第1・2種津波防災区域を除く

■被災宅地等の買取り（令和2年3月31日で、買取り事業終了）

- ・ 被災宅地等の買取りについては、要件を満たす土地について審査の上、順次買取りを実施
- ・ さらに、買取り要件の一部変更により、買増し対象となる土地についても同時に買取りを実施
- ・ 買増し分を含む買取り申出のあった約2,900筆のうち、R2.3月末時点で約2,539筆（約127.5ha）を買取り済み

問合せ：企画財政課 0223-37-1118

問合せ：保健福祉課 0223-37-1113

2. 都市整備～災害に強く人にやさしい利便的なまち

2-1 避難路等の道路整備

津波から命を守る避難のため、沿岸部から延びる大小 10 本の避難路となる道路について、狭い場所の拡幅や交差点の改良とともに整備しています。

- 花釜地区と山下地区をつなぐ「山下花釜線」(右図③)は、H26. 7 月から調査及び設計を実施、事業説明会を H27. 4 月に開催

H29. 2 月に工事着手し、H30. 8 月に完成

旧 JR 山下駅と山下地区をつなぐ「県道山下停車場線」(右図④)は、H26. 2 月に測量立入り等に関する説明会を開催したほか、H27. 3 月に事業説明会を開催

H28. 1 月に工事着手し、R4. 3 月に完成(宮城県実施)

- 笠野地区と浅生原地区をつなぐ「浅生原笠野線」(右図⑤)は、測量立入り等に関する説明会を H26. 10 月に開催

つばめの杜 2 号線から「いちご街道線」(H27. 4 月、農免道路から町道へ変更)間は、H27. 6 月に整備が完了し、残る区間については、H27. 8 月に工事着手、H28. 6 月に完成

- 新浜地区から戸花山を経由して合戦原地区の南側をつなぐ「真庭新浜線」((仮称)新浜諏訪原線)(右図⑦)は、H26. 10 月から設計着手

H27. 12 月に住民説明会を開催、H28. 10 月から用地測量実施中であり、H29. 10 月に 2 回目の住民説明会を開催

H30. 4 月に工事着手し、R4. 3 月に完成

- 磯浜漁港と上平地区をつなぐ「上平磯線」(右図⑩)は測量立入り等に関する説明会を H26. 2 月に開催丘陵部は H27. 10 月に供用開始し、磯地区については H28. 6 月より工事着手し、R1. 9 月に新設区間が完成し供用開始

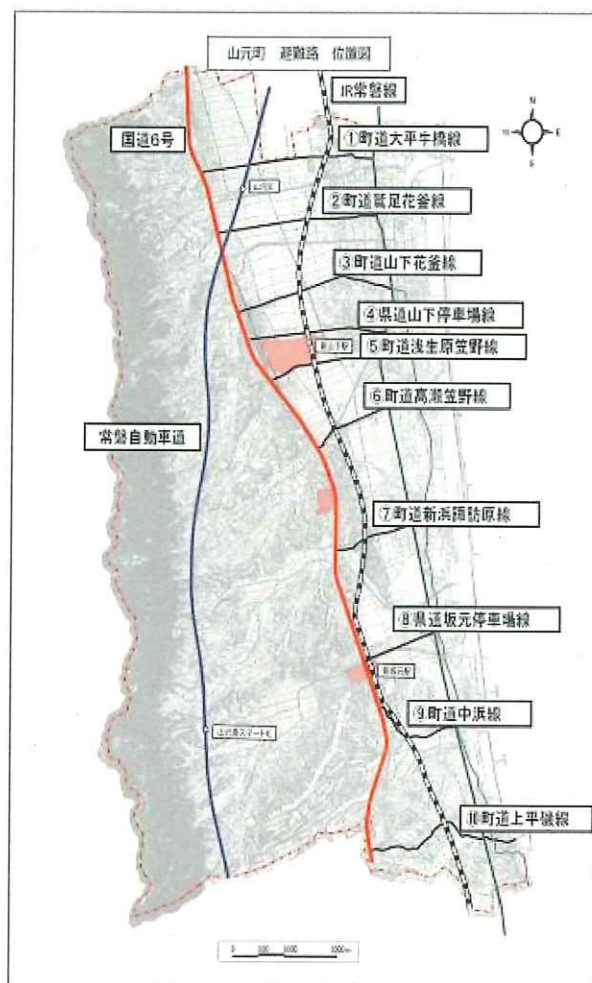
R2. 3 月に防護柵等を追加で設置完了

高瀬地区と笠野地区とをつなぐ「高瀬笠野線」(右図⑥)は、H28 に JR 常磐線との交差点が完成。

H30 に現県道相馬亘理線と新県道相馬亘理線の区間が完成。

残る区間は H30. 4 月に工事着手し、R3. 7 月に完成

問合せ：建設課 0223-37-5111



2-2 JR常磐線

JR常磐線の運休区間については、「駒ヶ嶺～浜吉田間」を内陸側にルートに移設して復旧し、R2.3月から全線で運転を再開しました。（事業主体：JR東日本）



出典：JR 東日本

問合せ：企画財政課 0223-37-1118

2-3 常磐自動車道山元南スマート IC

緊急搬送等の時間短縮、地域間交流の活性化、利便性向上を目的に、久保間地区内に ETC 専用のインターチェンジを設置しました。(事業主体：NEXCO 東日本)

- ・ H25. 6 月に高速道路への連結許可済み。H25. 9 月から測量、設計を進め、H27. 10 月に工事着手
 - ・ H27. 11 月に名称が「山元南スマート IC」に決定
 - ・ 常磐自動車道の本線は、H26. 12 月に浪江～山元インターチェンジ間を開通
- H27. 3 月に全線開通し、関東圏と直結
- ・ 山元南スマート IC が平成 29 年 4 月 1 日開通
 - ・ H30. 11 月に新地町方面から山元南スマート IC に直結する町道久保間中山線の万太郎橋が整備完了



問合せ：建設課 0223-37-5111

2-4 県道 相馬亘理線(二線堤:減災効果のための第2堤防機能)

旧JR用地を活用し、4～5mの盛土により二線堤機能を持つ幹線ネットワーク道路を構築しています。（事業主体：宮城県）

- ・ R1.9月に福島県境から町道上平磯線までの約800m区間が供用開始
- ・ R2.7月に震災遺構中浜小学校以北約400m付近の約2100m区間が供用開始
- ・ R2年10月に旧坂元駅までの約960m区間が供用開始
- ・ R2年12月に町道大平牛橋線から亙理町境までの900m区間が供用開始
- ・ 令和3年3月26日に福島県境から亙理町境のすべての区間で供用開始、整備完了



問合せ：建設課 0223-37-5111

2-5 上下水道の復旧等

地震により破損した管きょ（路面に埋設した上下水道管等）及び施設を復旧しました。

- ・ 上水道については、給水区域内の復旧完了
- ・ 下水道については、H27.3 月末までに総延長約 17.5km の復旧完了
- ・ 磯地区農集排区域については、被災管きょ及び小規模処理施設の復旧完了
- ・ 避難路等の道路整備に伴い、支障となる上下水道管きょの移設・撤去工事を実施中



問合せ：上下水道事業所 0223-29-4951

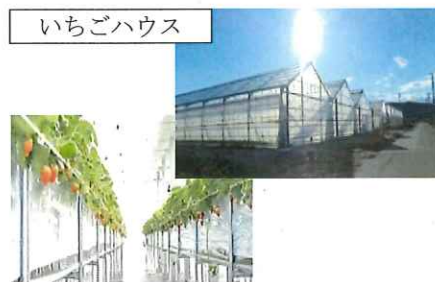
3. 産業～山元町ブランド産業を復興し、創造する活力あるまち

3-1 山元町特産「いちご」の生産団地(いちごハウス)

東北でも有数のいちご産地の復活に向け、農家の栽培施設の整備が完了！

- ・ H26.4月、計画する4ヶ所全てのいちご団地整備が完了
- ・ H26.11月、団地に参加する農家全52戸で出荷がスタート
- ・ H29年において、生産量は震災前の水準に回復。震災前に比べ生産者は半減したが、一人当たりの生産量は約1.5倍に増加
- ・ 震災以降、いちご生産法人が新たに立ち上がり、現在12の法人がいちごの生産や独自の販路開拓などに取り組んでいる。

問合せ：農林水産課 0223-37-1119

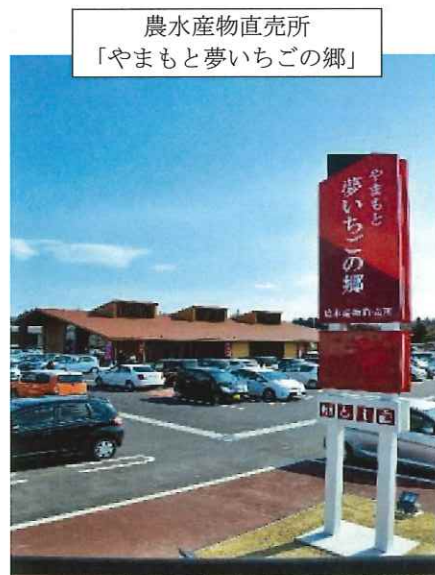


3-2 農水産物直売所

にぎわいと活気にあふれるまちづくりに向け、総合案内所機能を有する農水産物直売所を新たに整備しました。

- ・ 農産物直売所「夢いちごの郷」は、H23.9月(いちご狩りはH24.2月～)から仮設店舗にて営業再開。農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」の開業に併せH31.1月に営業終了
- ・ 交流人口拡大に向け中核的な役割を担う農水産物直売所は、坂元駅前の「新坂元駅周辺地区商業用大区画」に建設する方針をH28.12月に決定
- ・ H29.2月、山元町交流拠点施設建設検討委員会を設置し、施設の建設並びに運営に必要な事項についての検討を開始
- ・ H30.3月、施設の実施設設計業務完了。H30.6月、工事請負契約締結、H30.12月竣工
- ・ H31.2月農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」としてグランドオープン。特産のいちご、りんご、ホッキ貝や採れたての新鮮野菜等を各旬の時期に販売するほか、山元ブランド品をはじめとする地場産品等を豊富に取り扱っている
- ・ R2.11月、オープンから1年9ヶ月で来場者100万人を達成
- ・ R3.1月、直売所施設隣接地にフードコートを開業。テナントには「和・洋・中」それぞれのメニューを提供する3店舗が入居し、時季の郷土料理や地元食材を活用した料理など、バラエティーに富んだ食事を提供している。
- ・ R3.10月、オープンから2年8ヶ月で来場者150万人を達成

問合せ：商工観光交流課 0223-36-9837
やまもと夢いちごの郷 0223-38-1888



新しくオープンしたフードコート



3-3 磯浜漁港

かつての活気を取り戻すべく、被災した漁港施設の復旧が完了しました。

- ・ 津波により飛散した約3,000個の消波ブロックは、H27.5月末ですべての設置・復旧整備を完了
- ・ 「水産物荷捌所」等の水産業共同利用施設はH26.3月に完成し、H27年度に共同利用漁船20艘の登録整備を完了
- ・ 防波堤や物揚場等をはじめとした漁港施設は、H27.11月にすべての復旧整備を完了
- ・ 漁港入口は堤防で締め切り、出入り用の乗越え道路を整備しH29.3月に完成

漁港入口の締切堤防と乗越え道路



- ・ 防潮堤の背後地に整備を進めてきた水産関係用地等の造成及び第二共同利用漁具倉庫が R1. 10 月に完成
- ・ 被災前、漁港入口に立っていて、津波で水没した高さ約 2m の松の木は、乗越え道路（締切堤防）上に移植
- ・ 漁港停泊地の静穏度対策のため、防波堤は R3. 3 月完成
- ・ 漁港北側に整備を進めている海岸環境施設については、R2. 9 月に完成

問合せ：農林水産課 0223-37-1119・建設課 0223-37-5111

乗越え道路（締切堤防）上に移植した松



3-4 効率的な水田農業の経営

農業施設や農機具が流出・損壊した被災農家の水田の集積化を積極的に行っています。

- ・ 効率的な営農を行うため、被災した水田 937ha のうち約 580 ha を積極的に集積するとともに、その担い手である大規模経営農家(10経営体)に対し米の乾燥調製施設や水田農業機械等を整備
- ・ H30. 5 月、東部地区農地整備事業により整備した全ての水田の引渡しが完了し、約 152ha で水稻作付けを開始

問合せ：農林水産課 0223-37-1119

米の乾燥調製施設



3-5 山元東部地区農地整備

沿岸部農地の早期営農開始を目指して、農作業の効率性を高めるための大区画化と、有効な土地利用が図られるよう、土地の再配置や区画整理を行うとともに、地域の長年の懸案であった排水改良を一体的に整備しています。（事業主体：宮城県）

- ・ 事業面積 602.9ha（農地面積 426.6ha）のうち、H27. 3 月から施工を開始し、牛橋工区（約 59ha）、花釜工区（約 94ha）、笠野工区（約 79ha）、新浜工区（約 60ha）、戸花工区（約 32ha）、大谷地工区（約 37ha）、中浜工区（約 28ha）、磯浜工区（約 28ha）の計約 417ha においてはほ場整備工事を実施
- ・ 水田約 152ha については平成 30 年 5 月 1 日付で、畑約 265ha については平成 30 年 6 月 1 日付で耕作者へ引渡し、営農を開始
- ・ 排水改良の柱である横須賀排水機場については H28. 10 月より工事を実施し、H30. 10 月に完成し供用開始。戸花川排水機場については、H31. 2 月より工事を実施し、R3. 4 月に供用開始

問合せ：農林水産課 0223-37-1119

復旧後、初の収穫（新浜工区）



横須賀排水機場（完成）



3-6 園芸作物用出荷調製貯蔵施設等の整備

被災した農地（畑地）の集積化を積極的に行い、営農を再開しています。

- ・ H28. 10 月、出荷調製貯蔵施設、農業機械格納庫、残渣処理棟の合計 3 棟から構成される、東日本最大級となる園芸作物用の出荷調製貯蔵施設が完成、稼働開始
- ・ 当該施設は、被災農家(53 戸)が発起人となり設立した「(株)やまもとファームみらい野」が利用し、長ネギや玉ネギ、甘藷等を大規模に栽培、ほ場整備完了の折には、約 120ha を営農する予定
- ・ 同社では、H29. 2 月、園芸作物用ハウスを整備し、同年 5 月からトマトの出荷を開始したほか、H30. 3 月には、さつまいも加工施設を整備し、東部地区の畑地で生産したさつまいもを使い、干し芋を商品化

問合せ：農林水産課 0223-37-1119

出荷調製貯蔵施設外観



順調に育つトマト



4. 防災・安全・安心～自助・共助による防災意識の高いまち

4-1 防潮堤整備

流失した防潮堤を標高(T.P)7.2m までかさ上げし、全面護岸で強固な堤防を構築しています。
(事業主体：国土交通省、農林水産省、水産庁実施)

- ・ H31.3月に全ての防潮堤の整備完了

問合せ：建設課 0223-37-5111

一ノ沢締切防潮堤



4-2 防災緑地(防災公園)

津波襲来時に沿岸部利用者の一時避難場所として築山(避難丘)を備えた防災公園を整備しました。

- ・ H27年度から沿岸部3ヶ所(牛橋区、花釜区、笠野区)で整備を進めてきた防災公園が完成し、H28.12月から供用を開始
- ・ 新しい公園の名称は「花釜避難丘公園」「笠野避難丘公園」に決定(牛橋区は既存の公園に避難丘を整備)
- ・ H29.12月に公園内避難丘への誘導サイン設置工事が完了

問合せ：建設課 0223-37-5111

牛橋公園の避難丘と避難誘導サイン



4-3 防災緑地(海岸防災林(防潮林)復旧)

飛砂・潮風害の緩和、減災を目的に、津波の水流にも耐えられるように、元々存在した保安林(地下水位)の上に約2~3mの生育基盤(盛土)を造成して植栽しました。(事業主体：林野庁)

- ・ 町内沿岸部において生育基盤整備の施工完了。
- ・ クロマツ等の植栽は、R1.11月に完了。また、県公募の約2haにおいてもNPOの協力を得て植栽事業をR2.5月に完了。

問合せ：農林水産課 0223-37-1119

盛土の様子



生育基盤施工状況



4-4 震災遺構中浜小学校

東日本大震災の教訓を伝承し、風化防止や防災意識の向上を目的とした防災教育施設として、震災遺構中浜小学校を一般公開しました。

- ・ 震災の伝承や遺構保存のあり方等について、検討会を複数回開催
- ・ H27.1月に「震災伝承及び震災遺構の保存・活用に関する提言書」を検討委員会から受理
- ・ 上記提言書等を踏まえ、遺構保存活用に関するワークショップ・意見交換会を複数回開催。H28年度に基本計画を策定
- ・ 被災当時の現状を保存するため、建築基準法の適用を除外すべく、H30.6月に「山元町東日本大震災遺構保存条例」を制定
- ・ 内部公開に向けた改修・展示設計、広場の測量設計業務がH30年度に完了
- ・ R1.6月保存整備工事、同年9月メモリアル広場整備工事に着手、R2.3月工事完成
- ・ R2.9月19日、20日にプレオープンを実施
- ・ R2.9月26日に開館記念式典を開催後、一般公開開始
- ・ R2.10月に見学体験の工夫などが高く評価され、2020年度の「グッドデザイン賞ベスト100」、「グッドフォーカス賞」をダブル受賞
- ・ R3.9月に小・中学生向け防災教育ワークブックを販売開始
- ・ R3.12月に旅行代理店と連携(観光券活用事業等)

問合せ：生涯学習課 0223-36-8948

中浜小学校



4-5 令和2年度総合防災訓練（ブラインド方式によるコロナ禍の避難所開設・運営訓練による能力向上）

- ・新型コロナウイルス感染症の発生当初から、感染防止を念頭に、感染防止資材の導入と災害時の避難に関する対応を検討しました。
- ・役場職員の対応を主体に「避難所開設・運営訓練」を行い、ブラインド方式による訓練を実施し、突発時の対応力向上を図りました。

問合せ：総務課 0223-37-1111

コロナ禍での避難所開設訓練



災害対策本部



4-6 ハザードマップ（洪水・土砂災害編）、マイ・タイムラインの作成・全戸配布による自助の助長

- ・山元町を流れる河川等について、概ね 1000 年に一度の確率で起こる大雨等による、堤防決壊等の危険度を分析して、避難に役立つ情報を取りまとめ、ハザードマップ（洪水・土砂災害編）として、全戸に配布しました。
- ・災害への事前準備が可能な「台風接近」を基本に、「マイ・タイムライン」を新規作成・全戸配布して、自助の一例を紹介しました。

全戸に配布したハザードマップとマイ・タイムライン



問合せ：総務課 0223-37-1111

4-7 津波避難標識の整備完了（町内128箇所）

- ・東日本大震災と同規模の大地震が襲来した際、町民及び来訪者・通過者に対し、避難のための情報・誘導標識や指定避難所等への案内標識を整備しました。
- ・標識は、注意喚起標識×1、避難情報標識×18、避難誘導標識×91、避難場所標識×18の合計128箇所に蓄光・反射素材を使用して整備し、夜間避難を考慮したものとなっています。

津波避難標識その1(左)・その2(右)



問合せ：総務課 0223-37-1111

5. 行財政運営～復旧・復興を最優先に行政サービスを提供するまち

5-1 役場本庁舎の復旧

東日本大震災により被災し、解体を行った山元町役場庁舎を新築復旧し、来庁者の不便を解消するとともに、執務環境の整備を行います。

- ・ 被災者の方々の生活再建など関連事業を最優先にし、それらの事業の一定の進捗を見据えながら検討
- ・ H25年度からH29年度までの約3年半をかけて計画(設計)
- ・ 庁内での事業条件整理(基本構想段階)、住民ワークショップ・職員説明会等での意見聴取(基本設計段階)、基本設計(案)に対する町民検討委員会・職員検討部会での検討を経て本体工事概要完成
- ・ 建設地：浅生原字作田山 32 番地
- ・ 建築概要
 - 構造：鉄骨造 2 階建
 - 延床面積：約 4226.08 m²
- ・ H29.9 月に工事着手、H31.1 月に竣工し、令和元年 5 月開庁式を開催及び供用開始



山元町役場新庁舎外観

問合せ：企画財政課 0223-37-1118

発行日：令和 4 年 3 月 31 日
発行元：宮城県 山元町
編集：企画財政課 TEL 0223-37-1118